京城新報

●陰曆 五月八日
發行兼編輯人 秋山忠三郎
發行所 京城新報社

宮相李允用(二)

翠山生

▲斯くて彼れは多年住み馴れし戀しき故郷を後に見てヤッーのこと京城の地に着き早速其の父なるものを訪ふて母より聞きし言の葉の一伍一什を物語り「ドウか今日より貴郎のれ膝許にて御養育の程を……」と涙ながらに嘆願に及んだ、此の物語りを聽いた父は一時は實際意外に思つたがよく〳〵昔のことを想ひ起して見ると成程自分が今から十六七年以前或る官名を帶びて任に平壤に赴いて居つたとき土地の妓生を弄んだ結果其の妓生の腹に兒を宿したことの朧氣ながら、記憶して居るので、ソンな事は知らぬと刎ね付くる譯にも行かず、寧ろ慇懃に詞を和らげて「よろしい立派に養育して上げる又た前の云ふ通りれ前は確かに私の胤に相違なき程に、此れからは何んの氣心も措かず隨分と勉强せられよ、且つ此れなる完用はれ前よりも年少者であれば萬面倒を見遣り兄弟仲睦まじく暮されよ」どいとも懇ろに彼れを慰め諭めければ彼れの悦びは譬ふるに物なく不思議し涙の熱き涙が其の端坐せる彼れの膝を沾ほした、

▲彼れは非常なる美男子である、今でこそ寄る年波の頬は削け艶は失せたが其の少年時代に於ける容貌の美はしさは女にもしまほしき程、所謂凉眼秀眉、風姿軒々として才貌表に現はるゝとかの六ヶ敷形容詞は疑ひもなく彼れが容貌に擬せらるゝ文字である又ソレに彼れは前にも述べた通り其の胸三寸の裏ッ側が狡猾にして奸黠である位だからドウして、却々に小才は利いて居る才華ひ、事に處して應變の智を廻らす等は彼れが最も得意とするところである、而り此の美貌に加へて此の才を有す、蓋し表面に現はれざる人情の機微を捉へ、事柄の幽幻を探つて巧みに事に當つて行つたならば必ず將來の成效期して俟つべきである、殊に女の勢力常に熾んにして只管に邪情感情のみに依つて左右さるゝ韓國從來の政界に於てをやである、

▲彼れ是れする内に父の教育空しからずで彼れは爰に相當の年輩にもなり、良び若者となつたが同時に豫てより彼れが抱懷せる滿腔のアンビションは勃々として抑ふべからずであつた其のアンビションとは外でも無い、即ち「男兒苟くも生を現世に受く子として醉生夢死するは小人の事、須らく驚天動地の一偉業を試み以て萬古に亘りて史上に名を垂る豈男兒快心の極、あらずや」との雄々しき決心なのである、而して彼れは常に此の決心を以て狼眼鼯目、何事か仕出來さんと絶へず時の風雲を觀望して居つた、

▲果せる哉一攫の肉塊は端なくも此名譽と利達との念に餓ゑて居る彼れが口中に投げ込まれた、而り梭子は投げられたりルビコン河は渡るべし、彼れは心中狂する許りに打ち喜び、我が時到れりと許りに雀躍したサテ其の時機到來とは何んであるかといふとツマリ彼れが例の大院君の知遇を受け非常に其の才を愛せられたことである、彼も亦之れが他日出世の端緒であるから極めて熱心に忠實に大院君の意を迎ふるに努めし故大院君にはスッカリ彼れが人物に惚れて了ひ、那れならば宮廷の事何を相談しても大丈夫だと何事にまれ彼れに諮つたものである、サテ丁度其の時大院君に年頃の女があつた、所で大院君には其の女の婿かねの人選につき人知れず心を碎いたが其の結果ヤッ彼れならば男振りと言ひ、才識といひ此の中し分がないから娘の婿として立派なものと自身の胸で取り極め、頓て兩方にも其の意を含めて爰に目出度夫婦の杯を擧げさせたのである(つゞく)

新刊紹介

●東京經濟雜誌● 本號には重要記事として「金融の景況」「製絲資金の供給如何」「トラストの利弊」「兌換紙幣の下落」等を揭げ居れるが依例何れも刻下經濟界の事相を遺憾なく論述せり(一部十二錢一千四百四十一號東京京橋區彌左衛門町東京經濟雜誌社發行)

●時代宗教● 渺たる雜誌なれども内容は極めて有益に一見刻下に於ける時代宗教の眞髓を窺ふに足るべし(一部五錢第四十號東京麴町區時代宗教社發行)

●催眠術雜誌● 東京新報の改題せるものの論說には加藤弘之氏の「人心の研究」の一篇を揭げたるが流石は碩學達識の氏の意見なるを以て一言一句首肯すべきものあり其の他催眠術に關する眞摯なる記事載せあれば一聽は眼を透すべき價値あり(一部二十錢六十五號東京芝區愛宕町催眠術雜誌社發行)

●月報● 第一銀行韓國總支店調査部より發行せるもの第一節貨幣、第二節預金、第三節貸出金、第四節爲替受拂、第五節大韓國々庫第六節 本金庫、第七節各地金融概況及び附錄等に項を分ち以て四月中に於ける一ヶ月間の經過を記述せるが一目の下瞭然として最近韓國に於ける一班の經濟事情を知るを得べし

●成蹊● 總てに於て概して前號よりも齊整し來り論文は何人の手に成るや知る由なけれど文辭適勁にして且つ覇氣に富み堂々として四邊を壓するの概あり(一部五錢十六號東京牛込市ヶ谷成蹊社發行)

小說 新不如歸(二十九)

篠原嶺葉著

螺線を描きし如き芝原の小徑を通り拔けて松並木にかゝると、敏男は百合子の手を取つて、

「百子さん、路が凹凸になつてゝ危ないから私の手に縋るやうにして歩きなさいよ、轉んだら大變だよ。」

百合子は敏男の爲すがまゝに其手を任せて徐々と步むのである。



するど松並木の中程まで步むだ時、行方の林の中で憐ッぽい優しい調子を張上げて。

「大磯、小磯の、礒邊を行けば。殿御戀しと千鳥啼く。」

と、唄ふ聲が手に取る如く聞わたと思ふさ早其人は僅か三四十步の前に姿を現はした見るより百合子は。

「ね、貴方誰か參りましたから、手を放して下さいませんか。」

と賴むだ、敏男は放す氣色もなく、寧ろ益々其手を堅く握り締めて、

「管はんぢやないか、夫婦が手を取り合つて步行のは當然だから、誰に憚る所があるもんか。」

「だつて、田舍の人は可怪思ひますわ。」

「可怪思ふ者には思はして置かうぢやないか、自分が最も愛してるのが、這麽凹凸道で轉がりでもしたら大變だから、それで恁うして手を取つてるんぢやないか、其を左や右云ふものは、夫婦の愛情を知らんものだ、那樣ものが可怪思はうと、可笑思はうと管ふものかはゝゝ。」

「だけれども……」

と、何か云はうとする時、早くも件の人は咫尺の間に近いたので、百合子は其まゝ口を噤むだ。

見れば、唄うた聲の優しかつたも道理、十七八の田舍娘が、赤い襷をかけ、折からの太陽を手拭に避けて、眉深に冠り、濱邊歸りと見えて手には貝の入つた笊を提げて居る。

敏男等兩個を見ると、傍に寄つて路を讓つた。

敏男は例の快濶な調子で笊の中を覗き、

「姐さん濟まないね、大層貝が取れたぢやないか。」

と、路を讓つた禮を云へば、田舍娘は衿の邊まで眞赤に染めて、

「どう致しまして。」

と、羞かしさうに答へて俯向いた、兩個は其まゝ又ソロ〳〵と步み出したが、田舍娘は步む樣子もなく、振返つて兩個の後姿を物奇しげに眺むるのであつた。

それは兩個が手を取合つてるのが奇らしいばかりでなく、其の樂しそうな樣子に戀人を聯想したのであらう、

十步ばかり步むだ時、百合子はツト後を振返つて見ると、娘はまだ恍惚と此方を眺めて居た。

「御覽なさい、まだ此方を眺めて居ますよ」

敏男は微笑を浮べて。

「然うか、また見てるのか、あんまり百合さんが美しいから、それで眺めてるんだらう。」

云つて後を振返ると、今まで眺めて居た田舍娘は其まゝ步み出した。

「あら、那麽事仰やいましてよ、私を見てるんぢやありませんわ、貴方の御容子を眺めてるんですよ、其證據には貴方が振返つて御覽なさると、羞かしさうに步み出したぢやありませんか。」

「いや、どんだ證據見付けられたね、はゝゝゝ。」

韓海の漁業

京城新報

韓半島沿岸の水產に富めることは何人も知る所なり、就中魚族の饒多なる眞に天與の寶庫なり、斯る饒富の魚族が群棲するにも係らず微々として振はざるは何に基因するか、言ふ迄もなく捕獲の方法幼稚なればなり、啻に韓人の漁獲が拙劣なるのみならず我中國九州より年々出漁せるものは皆小規模にして韓人の漁業と多く選む所なし、瀬戶內海に漁すると同樣の手段を以て韓海に望む、恰も牛馬を割くに小刀を以てするが如し、余輩の所見に依れば半島南岸の漁業は英領濠州に於て行はるゝ捕獲方法を可とし、西北岸の漁業は北米加奈多等に行はるゝ漁獲方法に則るを可とすべし、之を大別すれば南岸は小漁業とし北岸は大漁業とす南岸の魚族は鯛、鰮、鰆、鯵等の散漫魚多くして北岸の魚族は鰯、明太、鰊、鯖の如き群集魚多し、故に其捕獲法自ら異らざるを得ず、一は手繰網を用ひ一は建網若しくは追擊網を用ひざる可らず、最も產額の大なる北韓の明太及鰊、江原の鰯の如きは建網と追擊網とを用ゆるの必要あり、南岸散漫なる魚族に對して差網の使用を試むるも可なり、加奈陀に於ける鰊漁の進步せるは實に驚く可きものあり、若し夫れ此追擊網に依りて北韓の明太、江原の鰯魚を漁とするに至らば其產額蓋し驚く可き增加あらむ、北岸の漁業に於て優に三千萬圓の漁獲あるべし、南岸の漁業も瀬戶內式漁獲を廢して濠州式に改むれば現時に五倍十倍するの收獲あらむ、斯の如く觀じ來れば韓國の水產亦忽にすべきものならんや、而して之が實蹟を擧げんとすれば寬大なる方法を以て總てを日本人に開放せざる可らず、少くも北岸の漁業には北海道の漁業家に經營せしむる餘地を與へざる可らず、樺太及露領沿海州に出漁するよりも多くの便宜を得るの特典なかる可からず、韓人に故障あるが爲に多くの制裁を加ふるが如き狹量の措置ある可らず、之を自由に開放して其經營の根基を確立するは寬大の取締をなさざる可らず我官憲の取締が公明を衒ふ爲に往々邦人の事業を萎縮せしむる傾きあり、之れ公使時代よりの大なる通弊なり、歐米遣外の官憲が自國民の利益を擁護するに熱心なるは感服の外なし、斯くてこそ海外先驅の健兒が奮闘するの光榮あり、之れ實に海外發展の素因なり、徒に些細のことに制裁を加へて膨脹力を萎靡せしむるは政治家の爲すべきことにあらず、取りも直さず帝國政策の妨害者なり、半島に於ても我官憲たるもの宜しく寬宏の雅量を保たざる可らず、斯くして邦人產業を奬勵せば韓國產業の發達期して待つべきなり、

水產業は特に此開放主義を必要とすること急なり、今は徒に繁瑣なる法律を制定するが如き時代にあらず、文明式の規則を以て拘束するは斯業の發達を妨害せむ、敢て當局者の注意を望むなり、

漢城便り

▲チヱレット氏去りミラー氏來り特て目下釜山に在る東京基督教青年會の幹事丹羽淸次郎君正に來らんとす皇城青年會が濟度すべき圈內へ入るも近きにありと被存候

▲チヱレット氏時代の青年會が基督教主義の上に立ちたるや否やは記者の疑ひし處に有之候博愛と寬容とは基教の本領に有之べきも一夫多妻者や私生兒やは基督主義者の歡迎すべきものには無之と存候併しチ氏は彼等を歡迎することを敢て致し候

▲セベランス醫學校に於て卒業證書を授與したるは統監近頃の大出來と存候迂儒ラッド翁が何を申せばとて統監に於ては長老派をも一視同仁たるべきものと被存候

▲近頃諸所の民團に於て土地の繁榮を增さんが爲に種々の企劃を爲し行くは至極結構と被存候只斯る企劃は如何にしても居留民の迷惑とならざる範圍に於て實行し得るものに限るべきものと被存候

▲內地の金融は少散緩和の模樣有之候との事に御座候其好影響は軈て當地にも及ぼし來ることゝ被存候併し當地金融界の諸君が褌を緩め候事はまだ／＼と被存候荷爲替一覽拂の勵行抔は決して油斷を許し不申候

東京電報

▲判官招聘 東京控訴院平山檢事外五十八名韓國政府に聘せらる（五日發）

雜報

●帝室財產整理の進捗 帝室有財產整理局に於ける京城附近の土地家屋の貸付は其の後非常に進捗し昨今の出願は既に貸付濟のものに屬するか或は宮內府に於て帝室の歷史及び禮體上の慣習に依り保存すべき地所か若くは他と競爭願に係るものたるに過ぎず單獨出願にして故障なく許借せらるゝものは僅かに二三に過ぎざる摸樣なりと聞く

●石材所出の委任 咸鏡北道淸津港の土木經營に要する石材伐採に關する件は同港駐在の我理事官に委任する旨裁可されたり

●豫備金支出 外國語學校英語教師及び前學部書記官三土忠造の慰勞金五千五百圓暴徒掃蕩費增額一萬九千六百六十七圓棉花栽培費增額六千三百三十四圓四十四錢三厘內閣會議の決議を經て豫備金より支出の件を上奏中の所此程裁可されたり

●東洋拓殖組織に於て 東洋拓殖會社創立委員の顔振は既に九十名以上確定し尙十名內外の增員を見るべし京濱、阪神、京都、名古屋の一流實業家其の多數を占め南滿鐵道の例に倣ひ九州よりも委員を任命すべきかは不定なり大藏、農商務、貴衆兩院議員之に加はれり內三十餘名は韓國側にして六十餘名は日本側なり株式引受の割合は日本十三萬株韓國七萬株の見當なるも日韓兩皇室の御引受株數は未だ確定せざるやに傳ふ曾禰副統監十日頃渡韓の上先づ韓國政府より東洋拓殖法を發表すべく統監府にては疾くに編制を了れり是に就きて日韓兩政府は同時に創立委員の任命を發表し創立委員長が委員會を召集して定款を確定するは七月上旬なるべく株式募集は八月頃ならんか昨今東洋拓殖の總裁は宇佐川中將とか岡部子爵とか副總裁は松崎藏之助氏とか傳ふるものあれど何れも確定せるにあらず副總裁は韓國人なりとの說或は信に近きが如し

●南韓鐵道の進捗 統監府鐵道管理局所管京釜鐵道中央部太田より忠淸全羅兩道を橫斷して南方馬山及び木浦兩港に通ずる南韓鐵道敷設に關しては昨年九月より各專門技師に依り地形地質及び民情貨物集散の狀況等を調査せられ木浦元山間の測量調査は既に昨年全部終了し全羅忠淸兩道より太田方面に至る沿道の測量は七月末か八月上旬には終了の豫定本年中に材料の蒐集を終り明年四、五月頃より工事着手の筈

●淸國人伐採材木押收 五月十四日淸國人伐採材木押收事件に立會の爲め統監府營林廠惠山鎭支廠長の要求に依り咸鏡南道三水憲兵分遣所中西伍長以下五名三水郡好仁社農坪上里に出張同月五日歸所せし狀況を聞くに惠山鎭營林支廠出張員事務官徐丙翰及技手永田太郎外通譯日韓人夫十名午後六時二十分到着せしを以て淸國安東縣人にして把頭（伐材主任）徐光福外十三名を集め該出張員に於て日韓協約營林事業に就き說き諭し伐採材木は全部押收すべき旨傳へたるも該淸國人等は更に反抗なく之に服從せるを以て同行の日韓人夫及該地に於て人夫を募集し午後七時三十分より着手筏組附の爲め作りたる各材の穴を切斷し刻印を捺し同時五十分押收を終り押收材木は左の如し

一、五葉松材木二連物二百十八本三、一連物三百四本（一連は我が八尺强幅一尺九寸厚さ五寸平均）三、一寸板六十枚四、平均六寸角四十一本五、木船一艘

以上の押收品は農坪里に都監崔得律に保管を命じ置き把頭徐老福は營林支廠員同廠に同行し伐材用具一、斧七挺二、鋸三挺三、大斧五挺は沒收し其他の淸國人には該地退去を命せり此淸國人は安東縣資本主于本成の使者にして于本成は目下奉天道臺に捕縛せられ居るも以上の處分は營林廠支廠出張員に於て行ひたるものにして淸國官憲には營林廠より交涉の筈なりと云ふ

●外國貿易旬報

（五月中旬分關稅局調查）

區分	本旬 本年分	前年同期
輸出品價	三五八、四七〇	四九七、三四〇
輸入品價	一、三六八、七〇五	一、二三四、五三二
合計	一、七二七、一七五	一、七三一、八七二
輸入超過	—	—

本年貿易額の港別左の如し

港名	本旬分 輸出額	輸入額	計
	圓	圓	圓
仁川	四三、一三三	六八二、〇三一	七二五、一六四
釜山	二六、八〇七	一八八、二九三	二一五、一〇〇
元山	三三、九四一	一六一、五〇一	一九五、四四二
鎭南浦	八九、六八六	一三五、五五四	二二五、二四〇
京城	—	一〇九、〇八三	一〇九、〇八三
群山	一三、〇六三	一八、三三八	三一、四〇一
木浦	一〇、四八三	一〇、五九三	二一、〇七六
馬山	五、〇一八	一三、四四七	一八、四六五
淸津	—	一七、七九四	一七、七九四
城津	二三、六三三	一〇、〇一六	三三、六四九
新義州	四三、五五六	三三、一六六	七六、七二二
計	三五八、四七〇	一、三六八、七〇五	一、七二七、一七五

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

港名	前年一月以降本月迄の累計 輸出額	輸入額	計
	圓	圓	圓
仁川	一、四〇五、三三八	八、〇三三、三二四	九、四一七、四五二
釜山	一、六三五、五四四	三、三三五、七六三	四、九七一、三〇六
元山	三三三、七四四	一、一七〇、五九四	一、五二四、三四八
鎭南浦	六九六、八四四	一、二三三、五七九	一、九二〇、四〇三
京城	三、〇五六	一四六、六一七	一四九、六七三
群山	一、四〇九、六五〇	一三六、一〇四	一、三一〇、七五四
木浦	五八七、六五一	三三六、六三五	八四四、二七八
馬山	一四、二〇〇	三〇七、三三八	六二一、四二八
淸津	—	—	—
城津	五四、八七七	八四、四八五	三三七、八五三
新義州	二九、九四〇	二七、九二三	一三九、三三二
計	六、〇三〇、七六四	一五、二〇六、二二〇	三一、二三六、八八四

●輸出重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
	圓	圓
米	一五六、二一七	一三七、七三三
大豆及小豆	八七、五四六	五二、一四七
鮮魚乾魚及鹽魚	一、五〇一	六、三二四
牛皮	六、三九三	四、一六七
人蔘	一八〇	八〇三
棉花	—	一〇〇
生牛	一八、六〇四	三一、三〇九

●輸入重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
	圓	圓
食鹽	二〇、六六五	九、六一七
砂糖及精糖	三六、一七七	三一、五三九
淸酒	三、六九八	三、一七四
石油	一〇一	一七、三五〇
打綿	一、〇五三	一、五九五
綿絲	四八、七七六	八一、八七八
生金巾及シーチング	七四、二一三	四五、六六九
晒金巾	二一、〇七〇	三〇、六六九
日本木綿	四四、七一六	二、五六四
麻布	一六、四一一	四八、二〇一
絹布	五九、九〇九	一〇、八二三
紙	一七、五五七	二〇、九四四
石炭	三六、八七〇	四三、六一六
熟鐵	三、一一六	一四、九六四
煙草（葉卷ヲ除ク）	三二、一二三	一三、二六五
木材（鐵道枕木ヲ併ス）及板	九一、六六三	—
セメント及石灰	三五、三三三	七、三八五
マッチ	一〇、九〇七	八、六六二

備考 前年分輸入品價額ノ累計ハ本月ニ於テ訂正シタル箇所アリ

●新院狀況 新院は多く農業を主とし人民は目下耕作に余念なく其產出せるものは粟を第一とし大小豆及米穀之に亞ぎ各種共平年は三千石以上を輸出せり然れども耕作に關しては農具の粗笨方法其他諸般の設備實に幼稚にして地味の齊腴に於て肥料の施行不充分なるを以て生產額其勞銀に伴はざるが如し人民は概して富裕ならずと雖も生計の度低きを以て口糊に急ならず新院地方中心に位し穀物の集散及物資の供給に努め昨今地方狀況恢復し農民は其業に安し商況亦振起し市場の面目を改めつゝあり新院の如きは恰も無政府の感なき能はず面里洞長は殆んど頑陋にして上命を下達する能はず且つ面洞の公安を圖るの事なし從て人民の之に服從するもの稀にして公共事業の如き一として見る可きものなし故に教育及衛生の必要を感ずとのこと校舍の設立道路の改修等今日に至る迄其事蹟の認むるものなし面里洞長を始め自己の利害に切なるの外他を顧るの義務なく人民の生命財產の保護誠に不完全と認むるなり而して新院の如きは人情極めて浮薄にして駐在憲兵軍守備隊に對し之に便利を興ふるの念乏しく目下地方の狀況上之が駐屯を歡迎し亦信賴せると雖も誠心厚意を表するの感情あるを認めず假令ば自衛團組織に關しても人民は勿論面里長始め之を厭忌し其口說に曰く既に憲兵軍隊の濃密なる以上は最早自衛團の必要を感せざるべし人民は之に信賴し漸く財產の迫害を避け一先づ其堵に安せんとする秋に於て再び該團を組織せば日本官憲の引揚後は賊の爲めに害せらるゝの虞れありと云ひて困難を除かんとするの氣力なし又賊徒に就ては鈴木討伐隊の偵察に努むるを以て昨今此地方に於ては嘯聚せる部隊を認めず只二三の草賊徘徊せるものゝみにして大部は平山及海州西北方に遁れ居るものゝ如し又耶蘇教は靑石頭を以て最も盛んなる所とし新院は十數名あるのみにて熱心教徒の勸誘に努めつゝありと云ふ

●吳服組合と小賣 仁川吳服太物商組合は此程規約を設け小賣は現金賣に限ることゝし唯だ特別取引を結ぶ場合は商業會議所聯合會決議の趣旨に從ひ每月五日拂とし若し其期限を經過するも尙支拂はざる者に對しては爾後特別取引を停止することゝしたり

●仁川下水工事追加 仁川民團役所より稅關工事部に對し京町附近の下水工事以外更に宮町附近にも下水工事を施さるゝやう昨日追加申請に及びたりと云ふ

●太安定期航開始 去月より陸軍運輸部所管の汽船渤海丸（三百五十屯）を以て太沽安東縣間定期船を開始せるが每日二回往復大連に寄港し內地との定期船神戶丸及樺太丸に連絡するものなりと云ふ

●道路開鑿補助 堀力太郎、末永省二、田中良助、淸水松三郎の四氏委員となり工事に着手し開鑿竣成を見るに至りたる仁川數島大門前より一直線に舊共同墓地跡に通ずる五間幅道路に對し仁川民役所より或條件の下に金一千圓を補助したり

●運輸打合會 曩に渡來せる暴徒討伐隊の軍需品は目下仁川丸、江陽丸等にて輸送されつゝあるが仁川陸軍運輸部にては之れ等輸送及○○等の打ち合をなすべく各出張所長を招き昨日より二日間同部樓上に於て協議會を開きたりと

●騎兵の發火演習 六、九、十三の日割にて騎兵第十七聯隊第三中隊は京城東南方松波鎭間に於て實包發火野外演習を施行す

●仁川軍友團運動會 仁川在鄕軍友團にては明七日日曜日をトし萬石洞八景園下廣場に於いて大運動會を開催する由なるが餘興には琵琶、角力、擊劍、花火等ありて頗る盛會を來すべしと云ふ

●御用船の出入 陸軍御用船江陽丸は一昨日鎭南浦より仁川に入港し直に兵器百屯及び憲兵三名を乘せて宇品に向ひ又昨日安平丸は軍需品七十五屯を積みて入港せり

●仁川海陸去來數 陸海兩路先月中仁川を去來せる人員を示さば左の如し

來	仁川驛	五千八百九十五人
	杻峴驛	一萬二千五百七十五人
	船便	二千三百六十一人
去	仁川驛	七千二百八十四人
	杻峴驛	一萬〇〇四十九人
	船便	二千〇〇七人

而して日本より來去せしものを海陸便に比較せば左の如し

來	仁川驛	二百〇五人
	杻峴驛	二百二十三人
	船便	七百十人
去	仁川驛	百〇七人
	杻峴驛	百二十三人
	船便	二百五十四人

●米國總領事の訪問 米國總領事サンモンス氏は四日午前統監府を訪問せり

●志賀重昂氏出發 五日午後三時十分の南大門發列車にて開城に下車同地に一泊の上平壤安東縣を視察して十二日頃水原に引返し天安溫陽を視察の上歸京の筈なりと云ふ

●露國地理學會員 モルトレとト氏は數日前日本より渡來せり同氏今回來韓の目的は韓國に於ける昆蟲殊に蝶類採集の爲めなり三日朝平壤寧邊地方へ出發す

●中央大學校友會 明七日龍山八景園に於て同學院出身者の懇親會を開く由定めて盛會ならん

●永沼評定官の赴任 仁川理事廳副理事官より法務院評定官に榮轉したる永沼直方氏は本日赴任すべし

●淨土宗管長代理の謁見 先般當地の教化を終へ目下仁川にて布教中なる同北條辨旭師は一昨日入京韓皇に謁見し再び下仁同地及び開城の布教を了へ直ちに滿州に赴くべしといふ

●井上開教使長の滿州視察 淨土宗の同師は管長代理に隨ひ近々滿州視察に赴くべしといふ

公人私人

△中野敬明（百六銀行頭取） 昨日釜山を經て來京天眞樓
△篠尾明濟（鏡城衞戍病院長） 一昨日來京
浦尾
△內藤瀧藏（砲兵少佐） 同上
△白水松次郎（日本火災社員） 同上
△大坪昌文（會寧衞戍病院長） 一昨日來京
山本旅館
△圓山萬三郎（二等藥劑官） 同上
△市村鐵外（一等藥劑官） 同上
△山岸理一郎（同上） 同上
△諏訪善太郎（咸興監獄典獄） 一昨日三日月旅館
△三井久陽（平壤監獄典獄） 同上
△古垣宗次郎（光州監獄典獄） 不知火旅館
△粟屋梅三（海軍少佐） 巴城館へ
△森駿藏（海軍少佐） 同上
△西山實親（橋立艦長） 同上
△大瀧道助（同副長） 同上
△小花三吾（嚴島艦長） 同上

●近事片々

▲伊藤統監辭職說は偶々公の政策に慊焉たらざる徹證なりと萬朝子論せり是公平觀
▲又曰 伊藤公の懷柔策は今日の實況にては全然失敗也伊公の辭任敢て惜むに足すと
▲統監辭任は虛說也と頻に辨疏す左もあらむ就任當時の豪語に對しても辛抱すべし
▲辨疏に曰く健康勝れず暫く歸東韓太子の御教導をなし秋冷の候を俟て歸任せんと
▲御用紙の報導眞實ならむ左らば秋冷の候歸任し亦冬に歸朝するならむ惜も御多忙
▲任地に在るは春暖と秋冷の二三ヶ月に過ぎず丸で御遊び同樣の觀あり義き次第也
▲眞面目に經營するには任地を離れぬが得策也と思ふ英雄の淺事も岸を等に解せぬ
▲英雄の胸中閑日月あり虛程英人に戯れ時に宮島詣でに艶事を演じ緒々餘勇あり
▲斯くして帝國の對韓經營完ふせらるれば甚だ結構に存ずるも些と腑に落ち兼申候
▲一進會長李容九統監に長文なる意見書を呈出せりと聞く何事の意見ぞや聞まほし
▲現內閣にも同樣の意見書を出せりと巷說には現閣員に辭職勸告をなせる也と云ふ
▲前の朴齊純內閣にも一進會が彈駭的意見書を贈りたり其後暫にして內閣倒れたり
▲當時李完用統監との三角同盟成立せり今回は何れの方面に同盟成立せりや
▲本日京城商業會議所末松相の歡迎會を開くさ魂膽もわらんが隨分緩慢の歡迎會也
▲漸く纏で歡迎會を開くが如き事あらば隨分滑稽なり兎角韓國には非常識の事多し
▲歐米各國市場不景氣の爲に南阿ヨハネスブルクの金剛石採掘を三年間閉鎖すべし
▲支那の開明と共に金剛石の需用增加せんと英商人大に注目し居れりと着眼機敏也
▲閔泳徽の淸國移住は虛實交々判明せず富裕の泳徽亡命國の俱樂部でも造るの意乎
▲上海と浦鹽港は排日派の潜伏する所之等の尻押に移住するとせば甚だ不埒の奴
▲東部新橋停車場に花賣娘現はる珍らしき事迚非常に賣れると乙女の業には適當也
▲其娘瀟洒なる洋裝して輕快に立廻り乘人の注目を惹く總て歐米風に世は成り行く
▲東京大相撲漸く天氣晴れ八日目の取組あり雨の爲に人氣腐れ最初の如き人氣なし
▲梅ケ谷と錦洋は前場所にも分を取り今場所亦分となる其强弱依然として未定數也
▲玉椿と朝嵐は朝焦て玉の勝利に歸す駒と大刀は分となる今場所は駒の呼氣衰へり

●賊徒討伐情況

[illegible]生前役が扶植せし全南の勢力に依りて見れ[illegible]證明して寸毫も疑を存せす△江原道麟蹄守[illegible]步兵中尉以下十一名は五月廿五日洪川郡內[illegible]日金川郡內に於て八名の賊に遭遇し其一を[illegible]約三里の地に於て賊一名を捕へ火繩銃一其[illegible]を押收す△京畿道高陽郡內に於て[illegible]官は五月下旬モーゼル銃三米國[illegible]百餘發軍刀一を押收す△全羅北道[illegible]所巡査三韓人巡査一は興陽守備隊[illegible]の下士已下七名と共に五月廿八日茂朱東南方約四里の竹場に於て三四十の賊を討ち五を殪し若干を傷け鹵獲品若干あり

●賊徒討伐情況

[illegible]同名異人にして彼は今[illegible]附近にありて賊徒を集合せりと報せしものあるも[illegible]終に秦元賊徒の術中に陥り居るものにして

生前彼が扶植せし全南の勢力に依りて見れば判明して寸毫も疑を存せず△江原道麟蹄守[illegible]歩兵中尉以下十一名は五月廿五日洪川郡内に於[illegible]下士以下七名は五月十日に於て賊六名を捕へ廿七日洪川東北約八里[illegible]然れども彼の死時に際し後日必らず此[illegible]より同十九日に[illegible]麟蹄西南地[illegible]及洪川の道[illegible]に於て約廿の賊に遭ひ之を潰亂せしむることを思慮し採りたる當時の撿分[illegible]を平昌郡内を捜索し賊六名を殪し一名を捕へしむ賊の死傷若干賊中[illegible]を混せり△開[illegible]名を殪し火繩銃知れる者を通じ共に其所部全南賊魁たるを銃五其他若干の鹵獲品あり△洪川分遣隊長城守備隊より派遣したる討伐隊は五月三十[illegible]兵分遣所の憲兵三名は五月卅一日白川東南[illegible]に於て六名の賊に遭遇し其一を[illegible]黄州鐵原[illegible]憲兵分遣所の[illegible]郡内に於て賊一[illegible]押收す△黄海道白川憲約三里の地に於て賊一名を捕へ火繩銃一其他若干品を押收す△京畿道高陽郡内に於て日本警察官は五月下旬モーゼル銃三[illegible]七彈丸六百餘發軍刀一を押收す△全羅北道龍潭駐在所巡査三韓人巡査一は同地守備隊の下士以下七名と共に五月廿八日茂朱東南方約四里半の竹場に於て三四十の賊を討ち五を殪し若干を傷け鹵獲品若干あり

●戀の左夫人(上)

△交際場裡のハイカラは下宿屋の後家さん▽

今や京城の交際場裡に立ちて兎も角も一異彩を放つ趙法相左夫人光岡竹子孃こそ天にも地にも二ツとなき果報もの出るに輕車あり肥馬ありて畏くも大韓皇后の賛謡たり入つては風薫る高樓(敢て温突と謂はず)に戀婿の君と相抱く其の得意さ加減思ふべしだと云ひたいが併し之れ光岡竹子其の人御自身親らが高う濟ましてこれが法部大臣の左夫人で御座いと演藝會やら夜會やらに有ろう事か之れ見よがしに婿がねとの痴話喃々いゝ加減に世の人から爪彈きされ居るも知らぬ程の自惚れのみ世間の人が何にも知るまいと思ふが間違ひやれ彼れは女學校の卒業生とか何々女塾の出身よと騒ぎ廻るものもあれば否とよ彼れは馬車屋の娘よ葬具屋の兒よとケナすもあり孰れにしても其處迄は未だ眼の届かぬ連中の揣摩憶測に過ぎざれば爰には一寸一分間違ひなしの洗ひ出し敢て其人をケナすでも無く讃むるでも無き正眞正銘の素性を吹聽せんに彼れ光岡竹子を花のお江戸で水道の水を生湯に使つた者に相違は無けれど錦町とは名ばかりの貧乏町燒芋屋腹便々たる書生相手の安下宿の娘イヤ後家さんにて芳紀正に廿と八歳手を伸さずとも既んでに届く三十年増額に小皺も寄り付けぬ程白粉コテ塗りの御容姿の佳さ堅から見ても横から見ても嬌態㸃々たるもの夫れが見ん事趙君重聽先生を動かしたれば今より約十年前竹子がモッツと若く美くしく而かも未だ瑞々しき新後家時代顔にニキビの三つ四つ五つ吹き出て御座る時であつたのだ即ち二階の薄汚ない六疊の室は彼れが今日交際場裡でボン〳〵と刎ね廻るより最少し派手に刎ね廻はつた處なのだ(つゞく)

つたが何分温陽に着いてからが未だ日本人も少からぬものから極めて不自由と寂寞さを感ずと云ふので今度は夫れ等の點に多少の施設をなして成るべく愉快に旅客を遊ばせようと云ふ計畫今營業課の某氏が出張して取調べをなして居るから歸つた後ちで何とか確定するだらうとの事

△馬山海水浴 これは昨年既に實行する筈であつた相だが生憎政變騒ぎの影響を蒙つて其儘中止となつて居つたが今年は是非とも實行する筈夫れには馬山町民の希望もあればと之れも未だ位置等は決定せぬが決定の上では割引切符を發賣して旅館などに對しても旅客に滿足を得る樣に交渉して總ての設備に遺憾なきを期する相だ

△[illegible]驛海水浴 之れは先年京釜鐵道會社が最后の園遊會を催した處即ち麻浦の前岸で鷺梁津驛から程近い場所に海水浴と云ふよりも其實河水浴場を設けて一寸した露店休憩所ピヤホール等を設くる筈とか此の方は京仁兩地の人士が日曜毎に出掛くるに妙であろう其外客車に對する設備のことも聞いたがこれは實行した後ちに書く事にしよう兎も角も韓國の鐵道も漸々進歩して來るは嬉しい(一記者)

●永登浦小學校の近況 現今の永登浦公立小學校は今を距る五六年前に設立したるものにて當時の學齢兒童を標準したるものなれば今日の狀態にては甚だ狹隘を感じつゝある際四月の新學年にて一層入學兒童の增加したる爲め今日に於ては學童をして一校に收容する能はざるのみならず教員にも不足を生せしに依り已を得ず午前午後の兩度に分ち教授することゝなり居れりと云ふ斯の如き有樣となるは既に數年前より明かなるにも拘らず當局者は徒らに爭競をのみ事とし何等學童の教育事業に願念するなく今日の如く學童の教授を二回に分割して行ふが如きは同地當局者が教育事業に不熱心なるより來れる結果と云はざるべからざるなり

●避暑と韓國鐵道 鐵道管理局が嚮きに金策を營業本位にしたる以來鐵道貨客の吸收に勉むると共に出來得る限りを盡くして旅客に滿足を與へんとする處あるは素より其の處であるが漸次暑氣が加はるにつれ例年の如く日本内地より觀光の客も殖ゆるやうし或は韓國在住者などにて出掛くる者もあらうと云ふ[illegible]に就いて施すと云ふ新設備[illegible]一二を聞き得た儘に記して見るさ

△温陽温泉 これは既に京仁の兩地及び京釜沿線の人が既に知つて居る通りの保養場遊び所として從來も割引切符等を賣つて居

●汲水夫の決議 城內外にある韓人汲水夫は其數千餘名に及び何れも各戶の需めに依り汲水し生活し居れるが彼等汲水夫は今回漢城水道會社の事業なる水道も既に鐵管の布設を了り本月末より給水開始の曉は我々は漸次職を失ふに至らん斯くては由々しき大事なりとて前號既載の如く西大門外獨立館に於て親睦會を開きたるが集るもの千餘名何れも水道攻擊の演說をなし給水開始の上は我々は糊口の道を失ひ遂に餓死するの境に至るや必せり故に之れが賠償を水道會社に交涉すべしとの決議をなしたりと

●西署管内戶口 西部警察署管內居住邦人戶口は人員に於て二千九百五十八戶數九百廿四戶にして每月漸次增加の傾向なりと

●本願寺說教 今夕は土曜日に付南山本願寺に於ては例の通り午後八時より說教あり

●弓術大會 明七日若草町一丁目藤井大弓場に於て左の順序により弓術大會を開催す
午前十時より總射、本四分(金的の事)午後一時より射割、的割、組矢代、源平、

●按摩か刑事か 車夫に化け饂飩屋に化け狸に化け狐に化くる刑事巡查が按摩と見違へられたからとて何も不思議は無いが之れは一昨夜南部署の某刑事が新町方面を偵察中一足先きに笛吹き流して巡り行く按摩あり刑事はそんな事には些つともれ拂ひなしに蛋取眼で通つて居ると清月樓の仲居さんが噪たゝしく飛び出して突如刑事の袖を捉ねイヨウ色男なら按摩さん先つきから彼れだけ呼ぶに何故寄つて吳れぬかさ例の客をたらす凄舌でまくし立てたから堪らぬ無い刑事グンと癪る面喰つて相手が意氣な女だけ夫れだけ餘計にドギマギして居ると女の方は何處迄も按摩と思ひ果ては此の馬鹿按摩と散々惡体を吐いた揚句一昨日來いと突き放したとは之れも時節柄には振つて居る此の刑事の名は工藤……

●境界爭ひ 南署樂善坊李奉銀と其の附近に住む清國人紀安傳とは宅地境界の事に付紛擾を生じ其の解決が附かず喧嘩をなし居りたる爲め二人とも銅峴署に引致さるる

●酒好きは酒屋へ 中署典洞金元善(三十)北署花洞高在宜(三十)南署茶洞朴基濬(三十)中署典洞申管永(三十)同朴璦柱(三十)の五名は一昨夜十一時頃酒に醉拂ひて歸宅中何處かで今一杯と相談が纏りて貞民洞迄來り其處の警林廠事務官係内藤方に街燈が點けてあるを酒屋と誤り家人に詰られて銅峴署に引致されたり

俗調 吉崎

主の居所漸くさがし
愚痴にさきだつ此涙
一寸手枕かわしたぎりで
浮名たつたる昨日今日
あつい心の二人の中へ
親がなさけの氷水

●盗まれた人 一昨四日午後四時頃大和町三丁目八番戶重兼貞助方家人が二階へ上り居りたる際金五十圓入りの手提金庫を窃取したる者あり何者の所爲とも判明せず目下取調中

●酌婦の天然痘 青葉町十七番戶岡ナミ(十九)は一昨日天然痘に罹る

●明治齋一座 奇術師明治齋一座は今回當地に乘り込み本日より永樂町三丁目に於て興行する由なるが同一座は曾て東京芝紅葉館にて天覽の榮を得たるを始めとし屢々貴顯紳士の觀覽の榮を得たる者にて到る處に好評を博したる者なりと

●食道樂 本日午後七時より本町六丁目有明樓支店に於て開く筈なり同會は明日同時より同樓にて開くことゝなりたり

●天氣豫報 (自五日午後六時至六日午後六時)
西又は東の風曇少雨
五日午前六時各地氣象概況 靜穩にして南部は快晴なれ共中部以北は陰鬱にして龍岩浦平壤は雨を催ふせり

西の宮た樂の述懐（六）

◎闇に紛れて都落ち

十四の年から藝者となりまして……左樣二十一の歳迄吉原で稼業を續けて居りましたが借金に攻め立てられるのが辛くてトウ〳〵前に申しました田町の知人へ身を隱さねばならぬやうな破目になり毎日ブラ〳〵と遊んで居りましたが「樂ちやん、お前さんのやうに毎日ブラ〳〵して居たんぢや身の爲めによろしくない、イッソ奮發して田舍へ飛び出して見ちや什麽だチ……夫りやア最う如何で田舍のことだから東京に居るやうな譯には行かないが眞逆に人を喰ふ鬼も住んぢや居やしない、世間にはわざ〳〵身錢を切つてさへ諸所見物に出掛ける人さへあるのだからツマリ其の氣で行く分にや洒落ッ氣があつて面白いぢやないか又何も此れが一生といふ譯ではなし、タカ〳〵二年か三年の年期だらうぢやないか第一知らない所を見て來る許りでも益があるよ又前さんさへソウと奮發すれば誂向といふ口があるよ」と親切にいつて呉れる人がありましたのですが田舍と聞いては餘り氣が進みませんが場合が場合ですから「ソウチ……物見遊山のつもりで往つて見やうか知ら併し田舍ッて一体何處なんです」と氣のあるやうな無いやうな返事をすると先きは吾た聞いた奥州の仙台サ田舍だッて酒屋へ一里豆腐屋へ二里といふ僻卑な在所ぢやないよ往つて見りやア氣が變つて飛んだ宜い芽がふくかも知れやしない……樂ちやんッウと極めなさいよ」と其の人が頻りに勸めますので私もフッと其の氣になり「ぢやトニカク一應往つて見ませう」と決心をつけ万事の契約を濟ませていよ〳〵仙台へ旅立つことになりましたが其の頃には未だ滊車が通つて居りませんから一台が六圓の極めで押ッ通しの俥を雇つて……コウッと那ればたしか十五年の六月でしたから何でも三社樣の祭禮の夜でした……借金取りにでも見附かると厄介だと雨も降らないのにホロを掛けさせて其の混雜の中を切り拔け五日掛りてヤットノコト仙臺へ着きましたからアヽヤレ〳〵といふので目差す鶴澤といふ家へと參りました、此の鶴原といふのは吉原の伊勢松の娘の家で主人はもと〳〵東京生れで鶴原喜一といつて義太夫の三味彈きでしたが仙臺に興行に行つてる內藝者屋を開いたのがトン〳〵拍子にあたつて其の時分土地ではなか〳〵の幅利でした妾の來るときは其の喜一さんと一緒でしたからヤッ氣心も大分に吞み込みましたが女房さんには始めてゝすので「如何か何分」といつたやうな挨拶を序開きにおきまりの近づきを濟ませましたが其の中夜も更けて來ましたものですから「デハ御免を蒙つて」と當がはれた部屋に這入りましたが其の夜夫婦喧嘩が始まつたのです（つゞく）



